琉球大学学術リポジトリ

農業農村整備事業計画への地域住民の参加意識

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学農学部 公開日: 2008-02-14 キーワード (Ja): 整備事業, 住民参加, アンケート調査, 地域づくり キーワード (En): improvement project, inhabitants participation, questionnaire survey, community development 作成者: 宜保, 清一, 中村, 真也, 佐々倉, 玲於, Gibo, Seiichi, Nakamura, Shinya, Sasakura, Reo メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/3628

農業農村整備事業計画への地域住民の参加意識

宜保　清一*・中村　真也*・佐々倉　玲於**

Seiichi GIBO, Shinya NAKAMURA and Reo SASAKURA : Participation Consciousness of Inhabitants in the Agricul-tural Infrastructure Improvement and Rural Development Project

キーワード：整備事業，住民参加，アンケート調査，地域づくり
Key words : improvement project, inhabitants participation, questionnaire survey, community development

Summary

A questionnaire on inhabitants' consciousness in the agricultural infrastructure improvement and rural development projects reveals as following facts.

The consideration for the regional characteristics and environments was insufficient in the projects hitherto implemented. The participation consciousness for the community development were different between the farmer and non-farmer, and younger generation and older generation. In addition to efficiency, functionality and economy, the high considerationfor the regional c haracteristics and environments are required in future projects.

緒　言

農業農村整備事業（以下「整備事業」と略する）では，食料・農村・農業基本法の制定に伴い，農業生産性の向上だけを考えた生産基盤整備ではなく，農村の多面的機能の発揮，農業の持続的な発展，農村の振興等を考えた生活環境整備や自然環境整備を実施することが求められている。さらに，生産基盤整備においても地域の特性に応じて環境との調和に配慮することが求められている（農業土木学会，1990；安楽，1999；平野，2000）。また，農村では過疎化，高齢化，農家と非農家の混住化等から，地域住民の整備事業に対する意識・意向も多様化している。

このような状況を踏まえて，整備事業の計画・実施においては，従来にも増して地域住民が主体的に事業計画に参画し，地域住民の意向が十分取り入れられる必要がある。本研究では，地域住民の整備事業に対する意識・意向と従来の整備事業における課題を明らかにするため，整備事業が実施された地域の住民を対象にアンケート調査を行い，その結果を分析した。

* 琉球大学農学部
** 琉球大学大学院農学研究科
琉球大学農学部学術報告　**49**：165 ～ 174（2002）

調査概要

平成８年度～平成11年度に農村総合整備事業，集落地域整備事業および中山間地域総合整備事業が実施された沖縄本島内市町村の担当職員を対象に予備的ヒアリング調査を行った。その結果を基に，整備事業の内容および市町村の規模を考慮して，沖縄県の北部，中部，南部からそれぞれ１村を選定し，地域住民を対象とした配票調査法によるアンケート調査を実施した。調査票は，各村の農業振興地域に含まれている行政区を選定して配布した。

調査結果および考察

１．アンケート回答者の属性と地域に対する意識

調査票の配布部数，回答数および回収率を表－１に，回答者の属性を表－２に示す。アンケート回答者は865人で，各年代および各職業の地域住民がバランスよく回答している。地域に20年以上暮らしている住民の回答者が約70％を占める。

回答者の地域に対する愛着，定住意向，地域の自慢できるもの，および地域住民同士のまとまりの有無を表－３に示す。地域への思いが強く，住民同士のつながりの深いコミュニティーが形成されていると考えられる。

表－１　アンケートの配布部数と回収率

地区名	配布部数	回答数	回収率(%)
A村	463	303	65.4
B村	452	295	65.3
C村	480	267	55.6
合計	1395	865	62.0

表－２　回答者の属性

属性		件数(人)	割合(%)
性別	男性	425	49.1
	女性	407	47.1
	不明	33	3.8
	計	865	100.0
年齢	10代	40	4.6
	20代	73	8.4
	30代	96	11.1
	40代	191	22.1
	50代	198	22.9
	60代	181	5.8
	70代	50	1.3
	80代	11	2.9
	不明	25	
職業	専業農家	82	9.5
	兼業農家	36	4.2
	漁業	2	0.2
	会社勤務	156	18.0
	公務員	70	8.1
	自営業	91	10.5
	パート	54	6.2
	主婦	180	20.8
	学生	41	4.7
	その他	119	13.8
	不明	34	3.9
定住年数	20年以上	602	69.6
	11年～20年	136	15.7
	６年～10年	58	6.7
	１年～５年	53	6.1
	１年未満	13	1.5
	不明	3	0.3

表－３　回答者の地域に対する意識

指標		件数(人)	割合(%)
愛着	ある	607	70.2
	少しある	153	17.7
	どちらとも言えない	63	7.3
	あまりない	20	2.3
	ない	6	0.7
	不明	16	1.8
定住意向	ある	639	73.9
	少しある	90	10.4
	どちらとも言えない	74	8.6
	あまりない	24	2.8
	ない	13	1.5
	不明	25	2.9
自慢できるもの	ある	640	74.0
	なし	152	17.6
	不明	73	8.4
住民同士のまとまり	とても強い	156	18.0
	強い	450	52.0
	どちらとも言えない	216	25.0
	弱い	28	3.2
	とても弱い	4	0.5
	不明	11	1.3

2．整備事業に対する意向

1）従来の整備事業に対する評価

従来の整備事業では，農業の生産性向上や高効率化をめざしたため，機能性に重きを置いた整備が行われてきた。そのため，農道や集落道，農業用用排水路や生活排水路がコンクリートやアスファルトを用いて画一的に整備され，ゆとりや豊かさを感じる部分に乏しいものとなった（千賀，2000）。このような従来型の整備に対しては，従来型整備の良いところ，悪いところと考えられる７項目を挙げ，それぞれの項目について評価を求めた（図－１）。「草刈などの維持管理が楽になる」の機能性が高く評価されている反面，「昔ながらの風景を壊している」，「自然環境が損なわれる」とのマイナス評価も高い。

2）生産基盤整備に対する意向

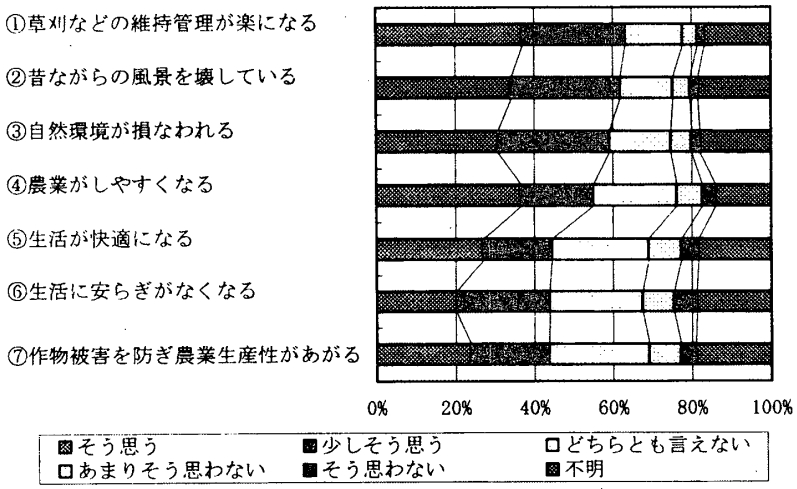
生産基盤整備事業は，土地改良法（５～10条）に則り，整備による受益者の合意によって実施される。生産基盤整備事業は，生態系，景観，歴史･文化等を含めた地域環境に対して様々な変化，影響を与えることから，受益者だけでなく，非農業者の意向に対しても配慮が必要である（農業土木学会，1997，2000）。

そこで，農地・農道・農業用用排水路整備にあたって，重視すべき次の７項目について，賛意を問うた（非農業者の場合は，住宅の近隣にて整備が行われることを想定）。①自然環境を損なわないこと，②農業がしやすくなること，③地元負担金を少なくすること，④草刈り等の維持管理が楽になること，⑤整備に時間がかからないこと，⑥昔ながらの風景を壊さないこと，⑦農業生産性があがること。図－２に示すように，生産基盤整備の本来の目的ではない①への賛意が最も多く，効率性・機能性だけでなく，地域環境や自然生態系に配慮すべきであるとの意向が示された。

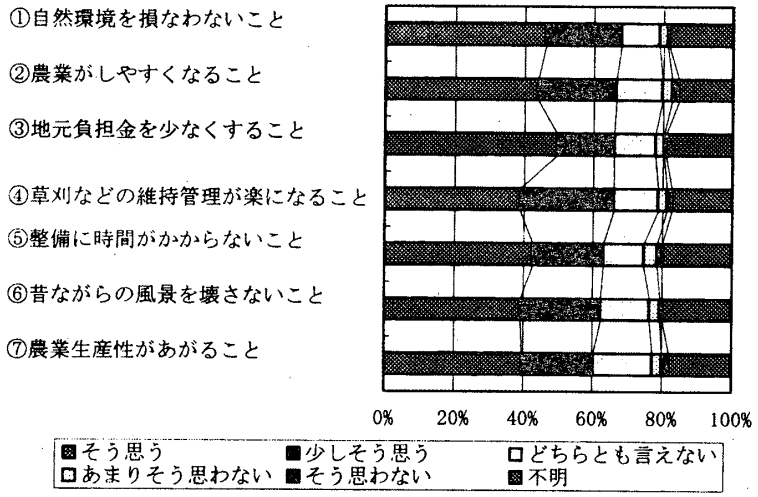
3）生活環境整備に対する意向

集落道・生活排水路などの生活環境整備にあたって，どのような点を重視すべきかについて，７項目挙げ，意向を問うた。すべての項目において60％以上が賛意を示した（図－３）。図－２と比べ，各項目に対して賛意が多い。地域住民にとっては，生活環境整備が生産基盤整備よりも身近であり，関心が持たれているようである。

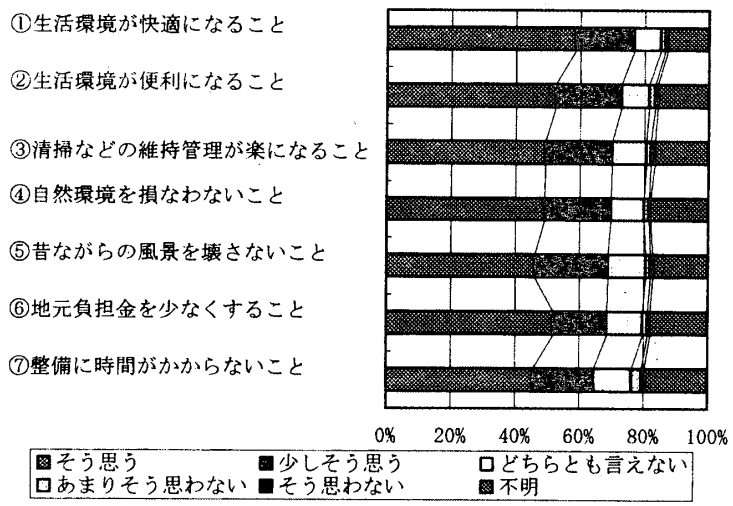
今後の整備に対して，効率性，機能性，経済性，利便性，快適性，地域環境・自然生態系への配慮が求められていることがわかる。



図－１　従来の整備事業に対する評価



図－2　生産基盤整備に対する意向



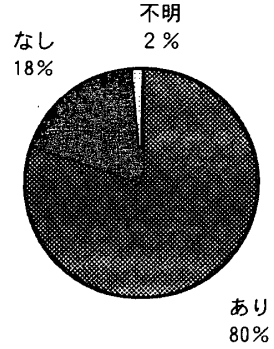
図－3　生活環境整備に対する意向

3．地域づくりに対する参加意識

1）地域づくり活動への参加意向

近年，整備事業における住民参加の重要性が指摘されている（星野，1992；農業土木学会，1994；岩田ら，1999；中瀬，2000）。そこでまず，自らが暮らす地域の"地域づくり"に対して住民がどの程度参加意識・意向を持っているのかを調べた。

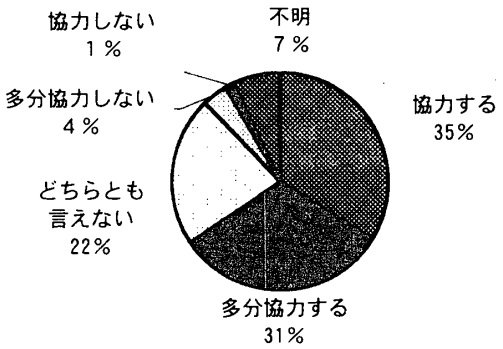
清掃活動や自治会活動への参加については，80％の住民が参加の経験がある（図－4）。『むらづくり委員会』等の地域づくり活動に協力しますか，という問に対しては，協力する，多分協力する，を合わせて66％となった（図－5）。



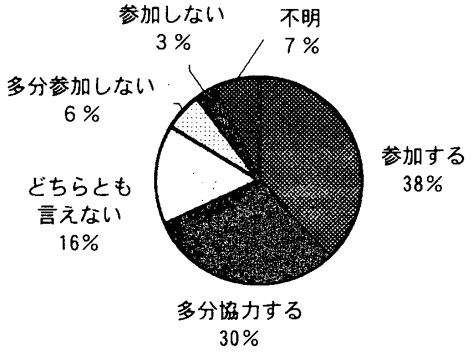
図－4　地域活動参加経験

図－４の地域活動への参加経験（80％）よりも少ない。地域づくりの中心となるような積極的な取り組みは避けたい意識が伺える。しかし，整備事業における説明会，意見交換会等への参加意向は，参加する，多分参加する，が合わせて68％となっており，若干増加している（図－６）。整備事業のもたらす効果が地域住民に認識されつつあることが伺える。

以上の結果を，農業者と非農業者，および年代別に分けて整理し，それぞれ表－４および表－５に示した。農業者の方が非農業者よりも地域づくりへの参加意向が強い。農業者は，生産基盤整備事業と直接的な利害関係にあり，関心が高い。低い年代ほど参加意向が希薄であることが伺える。これは整備事業が及ぼす影響に対する関心の低さの現れであり，地域に対する愛着の希薄さにもつながる。



図－５　地域づくり活動への協力意向



図－６　整備事業における意見交換会等への参加意向

表－４　地域づくりへの参加意向（農業者・非農業者別）

項　目		農業者		非農業者		有意水準[1]
地域活動参加経験	あり	105（人）	92.1(%)	587（人）	79.8(%)	**
	なし	9	7.9	149	20.2	
	計[2]	114	100.0	736	100.0	
地域づくり活動への協力	協力する	52	49.1	242	34.7	+
	多分協力する	29	27.4	243	34.9	
	どちらとも言えない	22	20.8	172	24.7	
	多分協力しない	2	1.9	32	4.6	
	協力しない	1	0.9	8	1.1	
	計[2]	106	100.0	697	100.0	
整備事業における意見交換会等への参加意向	参加する	68	59.1	262	38.1	**
	多分参加する	39	33.9	219	31.8	
	どちらとも言えない	5	4.3	130	18.9	
	多分参加しない	2	1.7	52	7.6	
	参加しない	1	0.9	25	3.6	
	計[2]	115	100.0	688	100.0	

1）＊＊：危険率１％において有意　＋：危険率10％において有意
2）不明（無回答）は除く。

表－5　地域づくりへの参加意向（年代別）

項　目		低年代 (10代～30代)		中年代 (40代～50代)		高年代 (60代～80代)		有意水準[1]
地域活動参加経験	あり	115 (人)	56.1 (%)	343 (人)	89.3 (%)	214 (人)	90.7 (%)	**
	なし	90	43.9	42.0	10.9	22	9.3	
	計[2]	205	100.0	384	100.0	236	100.0	
地域づくり活動への協力	協力する	33	27.7	130	36.4	123	54.9	**
	多分協力する	66	55.5	129	36.1	69	30.8	
	どちらとも言えない	72	60.5	89	24.9	27	12.1	
	多分協力しない	23	19.3	6	1.7	4	1.8	
	協力しない	5	4.2	3	0.8	1	0.4	
	計[2]	119	100.0	357	100.0	224	100.0	
整備事業における意見交換会等への参加意向	参加する	26	13.2	158	43.3	140	63.9	**
	多分参加する	64	32.5	134	36.7	51	23.3	
	どちらとも言えない	65	33.0	50	13.7	15	6.8	
	多分参加しない	26	13.2	16	4.4	10	4.6	
	参加しない	16	8.1	7	1.9	3	1.4	
	計[2]	197	100.0	365	100.0	219	100.0	

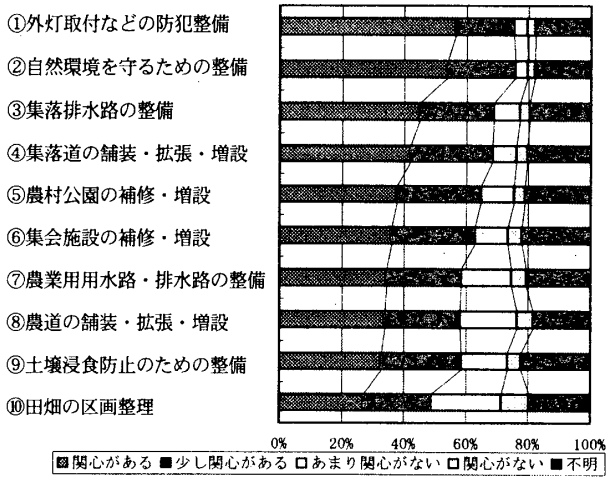
1）＊：有意性の検定結果　　＊＊：危険率１％において有意
2）不明（無回答）は除く。

2）整備事業への関心

農村では，農業施設が子どもたちの遊び場や憩いの場となるなど，農業者ばかりでなく，地域住民全体に対して多面的機能が発揮されていた。しかし，昨今は混住化が進み，農家以外の住民の占める割合が高くなり，多面的機能に対する関心が薄れてきている（石森ら，2001）。

図－７は，整備事業に対する関心の程度を調べたものである。全体として「外灯取付などの防犯整備」，「自然環境を守るための整備」に比較的関心が寄せられているに対して，「田畑の区画整理」，「土壌浸食防止のための整備」「農道の舗装・拡張・増設」等には関心が低い。農業者が，非農業者に比べて整備事業への関心が高いのは当然と言える（表－６）。年代別では，全ての項目において低年代の関心が低い（表－７）。

整備事業への関心は，恩恵が明確な農業者で高く，地域への愛着が希薄な低年代で低い。整備事業によって地域住民にもたらされる恩恵と地域環境に及ぼす影響が分かりやすく示される必要がある。



図－７　整備事業への関心

表－6　整備事業への関心（農業者・非農業者別）

項目		農業者		非農業者		有意水準[1]
		(人)	(%)	(人)	(%)	
①田畑の区画整理	関心がある	58	65.9	175	28.8	**
	少し関心がある	15	17.0	174	28.7	
	あまり関心がない	9	10.2	186	30.6	
	関心がない	6	6.8	72	11.9	
	計[2]	88	100.0	607	100.0	
②農道の舗装・拡張・増設	関心がある	66	68.8	226	37.0	**
	少し関心がある	17	17.7	194	31.8	
	あまり関心がない	9	9.4	148	24.3	
	関心がない	4	4.2	42	6.9	
	計[2]	96	100.0	610	100.0	
③農業用用水路・排水路の整備	関心がある	65	74.7	232	38.7	**
	少し関心がある	15	17.2	193	32.2	
	あまり関心がない	5	5.7	135	22.5	
	関心がない	2	2.3	40	6.7	
	計[2]	87	100.0	600	100.0	
④土壌浸食防止のための整備	関心がある	60	67.4	222	38.1	**
	少し関心がある	20	22.5	204	35.0	
	あまり関心がない	6	6.7	122	20.9	
	関心がない	3	3.4	35	6.0	
	計[2]	89	100.0	583	100.0	
⑤集落道の舗装・拡張・増設	関心がある	64	70.3	299	50.0	**
	少し関心がある	23	25.3	205	34.3	
	あまり関心がない	3	3.3	64	10.7	
	関心がない	1	1.1	30	5.0	
	計[2]	91	100.0	598	100.0	
⑥集落排水路の整備	関心がある	62	71.3	326	53.6	**
	少し関心がある	21	24.1	186	30.6	
	あまり関心がない	2	2.3	71	11.7	
	関心がない	2	2.3	25	4.1	
	計[2]	87	100.0	608	100.0	
⑦集会施設の補修・増設	関心がある	51	59.3	260	44.1	*
	少し関心がある	18	20.9	214	36.3	
	あまり関心がない	11	12.8	81	13.8	
	関心がない	6	7.0	34	5.8	
	計[2]	86	100.0	589	100.0	

注1）＊＊：危険率1％において有意　＊：危険率5％において有意
注2）不明（無回答）は除く。

3）整備事業と地域づくりに対する関係

整備事業は，単なる整備にとどまらず，自然環境，景観，文化，住民の意識等に影響を及ぼすため，地域づくり・むらづくりにおいて位置付けが必要である。そこで，農地，農道や集落道，農業用用排水路等の整備事業と，地域づくり・むらづくり活動との関わりについて調べた。半数以上は地域づくりにおける整備事業の重要性を認識しているが，関心の希薄な回答者も存在する（図－8）。地域づくりにおける整備事業の位置づけや各個人の役割と負担を明確にし，地域活性化による恩恵を周知させることによって地域住民の参加意識・意向が高められると考える。

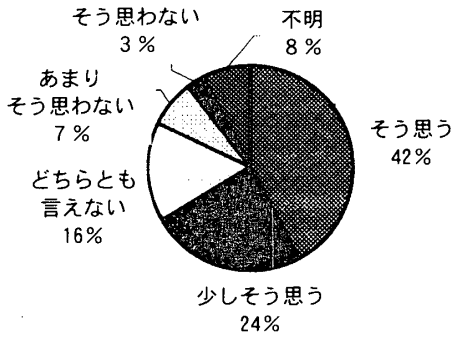
4）地域づくりに対する意識

アンケートのまとめとして，整備事業を含めた全体的な地域づくりに対する意見を5項目挙げ（表－8），それぞれの項目に対しての賛意を問うた。最も賛意が多かったのは，「住民・行政の協働

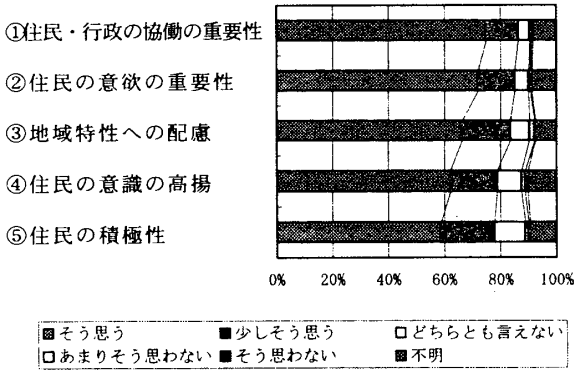
表－7　整備事業への関心（年代別）

項　目		低年代 (10代～30代)		中年代 (40代～50代)		高年代 (60代～80代)		有意水準[1]
①田畑の区画整理	関心がある	23 (人)	12.2 (%)	115 (人)	34.3(%)	91 (人)	58.0(%)	**
	少し関心がある	52	27.7	98	29.3	34	21.7	
	あまり関心がない	76	40.4	90	26.9	23	14.6	
	関心がない	37	19.7	32	9.6	9	5.7	
	計[2]	188	100.0	335	100.0	157	100.0	
②農道の舗装・拡張・増設	関心がある	38	20.7	141	41.2	109	66.1	**
	少し関心がある	57	31.0	114	33.3	32	19.4	
	あまり関心がない	64	34.8	71	20.8	20	12.1	
	関心がない	25	13.6	16	4.7	4	2.4	
	計[2]	184	100.0	342	100.0	165	100.0	
③農業用用水路・排水路の整備	関心がある	40	21.3	150	45.2	99	66.0	**
	少し関心がある	55	29.3	114	34.3	32	21.3	
	あまり関心がない	64	34.0	58	17.5	17	11.3	
	関心がない	29	15.4	10	3.0	2	1.3	
	計[2]	188	100.0	332	100.0	150	100.0	
④土壌侵食防止のための整備	関心がある	39	21.7	149	45.2	85	58.6	**
	少し関心がある	62	34.4	118	35.8	37	25.5	
	あまり関心がない	55	30.6	51	15.5	22	15.2	
	関心がない	24	13.3	12	3.6	1	0.7	
	計[2]	180	100.0	330	100.0	145	100.0	
⑤集落道の舗装・拡張・増設	関心がある	56	29.9	187	56.3	108	71.5	**
	少し関心がある	74	39.6	117	35.2	32	21.1	
	あまり関心がない	36	19.3	21	6.3	9	6.0	
	関心がない	21	11.2	7	2.1	2	1.3	
	計[2]	187	100.0	332	100.0	151	100.0	
⑥集落排水路の整備	関心がある	60	32.3	203	110.3	112	74.2	**
	少し関心がある	65	34.9	105	57.1	31	20.5	
	あまり関心がない	40	21.5	25	13.6	8	5.3	
	関心がない	21	11.3	4	2.2	0	0.0	
	計[2]	186	100.0	337	183.2	151	100.0	
⑦農村公園の補修・増設	関心がある	68	36.4	163	48.7	87	60.0	**
	少し関心がある	69	36.9	120	35.8	38	26.2	
	あまり関心がない	32	17.1	41	12.2	18	12.4	
	関心がない	18	9.6	11	3.3	2	1.4	
	計[2]	187	100.0	335	100.0	145	100.0	
⑧集会施設の補修・増設	関心がある	51	27.0	166	50.6	89	62.7	**
	少し関心がある	80	42.3	112	34.1	34	23.9	
	あまり関心がない	37	19.6	37	11.3	15	10.6	
	関心がない	21	11.1	13	4.0	4	2.8	
	計[2]	189	100.0	328	100.0	142	100.0	
⑨自然環境を守るための整備	関心がある	91	47.6	242	69.7	117	76.5	**
	少し関心がある	67	35.1	94	27.1	26	17.0	
	あまり関心がない	17	8.9	8	2.3	9	5.9	
	関心がない	16	8.4	3	0.9	1	0.7	
	計[2]	191	100.0	347	100.0	153	100.0	
⑩外灯取付などの防犯整備	関心がある	102	53.4	260	74.9	115	74.2	**
	少し関心がある	56	29.3	72	20.7	31	20.0	
	あまり関心がない	17	8.9	11	3.2	7	4.5	
	関心がない	16	8.4	4	1.2	2	1.3	
	計[2]	191	100.0	347	100.0	155	100.0	

1）＊＊：危険率１％において有意
2）不明（無回答）は除く。



図－8　地域づくりにおける整備事業の重要性



図－9　地域づくりに対する意識

表－8　地域づくりに対する意識（質問項目）

①<住民・行政の協働の重要性>	地域づくり・むらづくりは、行政と地域住民との協力関係が重要である。
②<住民の意欲の重要性>	地域を活力ある“むら”にするには、住民全体の意欲・やる気が重要である。
③<地域特性への配慮>	整備事業は、文化・歴史・自然環境などの地域特性を考えて、行うべきである。
④<住民の意識の高揚>	地域づくり・むらづくりを活発に進めるためには、地域住民の地域づくり・むらづくりに対する意識の高揚がまず不可欠である。
⑤<住民の積極性>	整備事業には、ただ要望を言うだけでなく、責任をもって積極的に意見を言っていかなければならない。

の重要性」であり，次に「住民の意欲の重要性」「地域特性への配慮」であった（図－9）。本研究並びに既往の研究（農村環境整備センター，1996；藤本ら，1999；門間・安中，2000；宜保ら，2001）から，整備事業をはじめとする地域づくりは，地域の特性を考慮しながら，行政・地域住民を含めた地域全体で取り組む必要があると言える。

結　言

従来の整備事業では，地域の特性や環境との調和への配慮が十分でなかったこと，整備事業を含めた地域づくり活動に対する住民の関心や参加意識・意向が農業者・非農業者別，年代別で大きな差違があったこと，今後の整備事業に対しては，効率性，機能性，経済性および地域特性への配慮が求められていること，が明らかになった。地域住民の意向が整備事業にうまく反映されるようなシステムや地域住民一人ひとりが整備事業の地域づくりに及ぼす効果を認識し，より良い地域づくりをめざして事業に参画するよう啓発するシステムを確立していくことが重要である。

最後に，本研究を進めるに当たり，調査票作成でご指導を頂いた琉球大学生涯学習教育研究センターの大膳司元教授，アンケート調査に協力して頂いた3市町村の住民の皆様，金城志保氏をはじめとする農学部農地及び防災工学研究室の皆様に謝意を表する。

引用文献

1．安楽　敏　1999　農業農村整備事業における自然環境への配慮，*農業土木学会誌*，**67**(5)：479-482

2．藤本信義，三橋伸夫，本庄宏行，黒岩麗子　1999　行政支援への移行を図る住民参加過程の検討－長野県高森町牛牧区の事例－，*農村計画論文集*，**1**：91-96

3．宜保清一，佐々倉玲於，中村真也 2001 農業農村整備事業における市町村職員の役割の重要性，*琉球大学農学部学術報告*，**48**：119-126

4．平野達男　2000　「食料・農業・農村基本法」の成立と農業農村整備事業，*農業土木学会誌*，**68** (1)：11-17

5．星野　敏　1992　参加型農村計画手法とTQC手法・考え方の応用可能性，*農村計画学会誌*，**11** (1)：50-59

6．石森昌子，森瀧亮介，植松宇之助，千賀裕太郎　2001　農業水利施設の維持管理等への地域住民の参画の可能性，*農業土木学会誌*，**69** (2)：51-56

7．岩田俊二，丸山直樹，萩原正三，市川俊行　1999　代替案選択方式の住民参加による集落整備計画策定の特質と成立条件に関する研究－静岡県相良町蛭ヶ谷地区の事例－，*農村計画学会誌*，**17** (4)：278-289

8．門間敏幸，安中誠司　2000　住民参加に関する市町村職員の意識特性と規定要因－東北中山間地域を対象として－，*農村計画学会誌*，**16** (2)：98-109

9．中瀬　勲　2000　住民参加の体制づくりと取り組み例，*農業土木学会誌*，**68** (8)：831-835

10. ㈳農業土木学会　1990　農林水産省構造改善局計画部土地改良事業計画指針「農村環境整備」，㈳農業土木学会：1-2

11. ㈳農業土木学会　1994　農村計画学－農業土木から農村整備への展開－，㈳農業土木学会：156

12. ㈳農業土木学会　1997　人と自然にやさしい地域マネージメント－地域環境管理工学－，㈳農業土木学会：140-145

13. ㈳農業土木学会　2000　改訂六版農業土木ハンドブック，㈳ 農業土木学会：58-59

14. 千賀裕太郎　2000　21世紀における農業工学と農業農村整備の展開方向，*農業土木学会誌*，**68** (8)：815-820

15. ㈳農村環境整備センター　1996　農村環境の科学，朝倉書店：28-30